

第4回寒河江市部活動改革検討委員会議事録（要約）

日時 令和7年2月12日(水) 15:00～

場所 寒河江市文化センター 2階 第一研修室

事務局	ただいまから第4回寒河江市中学校部活動改革検討委員会を開会する。
教育長	2月6日の山形新聞には「中学部活、地域移行進む」という記事があった。県教育委員会の調査によれば、運動部活動で約57%、文化部で約42%が地域移行に取り組んでいるということである。寒河江市においても地域移行、地域展開に向けて取り組んでいる。今年度も間もなく終わるが、地域展開について目途がたった競技もあり、やや遅れ気味の競技もあると思っている。これからその状況について事務局から報告がある。本日は第4回で今年度最後となる。今年度の事業報告、来年度の計画、部活動改革の成果と課題などが主な議題となっている。これまで部活動改革を進めてきて、いろいろ課題も出てきた。今年度は多くの団体で、国の実証事業に取り組んでもらい、そこで見えてきた課題等もある。課題に関しては、関係団体の協力が必要だと考えている。この会議では、来年度に一層、部活動改革が進み、子供たちがやりたいと思った時や休日でも活動できる環境を整えるため、皆様からご意見を賜りたいと思う。協議の最後では、各委員の皆様方からも、お考え等をお伺いできればと思う。本日は、大江町教育委員会からも参加いただいておりますが、寒河江市だけでなく、西村山地区で一緒にやっていくという方向性が必要だと考えている。児童生徒数も予想以上に減少の度合いが大きい。そうしたことも含めて、今後進めていく必要がある。本日は、限られた時間ではあるが、よろしくお願いします。
事務局	次第に沿って進む。佐藤教育長議事の進行をお願いします。
教育長	3. 報告協議。(1) 令和6年度寒河江市中学校部活動改革の経過について事務局よりお願いします。
事務局	資料の説明。
教育長	今のことについて質問はないか。
委員	資料を見ていて、会費に注目した。様々な金額が設定されている。金額については、保護者などから意見は届いているのか。スポーツ協会の中でも、金額の設定については言及されていて、特に困窮世帯に対して懸念を示している。家庭の事情で子どもに体験格差が生じるのは課題だと考えている。寒河江市は、どう捉えているのか。 2点目。実証事業において、総括コーディネーターが配置されたが、今年度活動してみてもうまい点や苦労した点について、総括コーディネーターにお聞きしたい。
教育長	まずは、1点目事務局よりお願いします。
事務局	会費の設定では、以前から活動しているクラブと新規で立ち上げたクラブとで設定に差がある。クラブ員が多い地域クラブは、若干低めの金額に設定されている。指導者の声として、今まで受益者負担という形ではしてこなかったのが、保護者に受益者負担を求めることや、指導謝金をもらうことへの抵抗感があるという意見があった。 困窮世帯に対しては、今後検討していく必要があると思っている。
教育長	続いて、コーディネーターをお願いします。
コーディネーター	コーディネーターの役割は学校の状況を聞き、それを地域クラブや地域の方とつないでいくような役割と捉えている。部活動改革は初めてのことで、戸惑いがある。 他地区から見ると寒河江市の競技団体は前向きに捉えていると感じている。 地域クラブからは、子どもたちとの接し方や指導者の確保が課題として挙げられている。 あとは運営面でのことである。地域クラブでは、指導謝金や施設使用料など、学校部活動よりも経済的な負担がある。どのくらいの会費設定が適切なのか難しいところである。 また、指導の面では、平日の学校部活動と休日の地域クラブの指導者とは、指導に違いが出てくることもあり、指導に対する考え方とかその連携が難しく、時間がかかる場所だと思っている。
教育長	コーディネーターには、指導者研修会の講師もしていただき、体罰の禁止とか、子どもた

	ちの気持ちを汲んでの指導などの面からの話もいただいたところである。 指導者の確保とクラブの運営は、実際に関わるものとしては課題で、私自身、競技連盟に加盟し、地域クラブの運営に関わっているが、指導者の確保は大変で練習の都度連絡を取りながら調整をしているところである。 それでは、（２）令和６年度寒河江市部活動改革の成果と課題について、事務局より願います。
事務局	資料の説明。
教育長	成果と課題についてご意見いかがか。
委員	先日保護者と話す機会があり、平日の体育館の鍵を借りるのに、夕方の５時までに学校に行き鍵を借り、返す時も５時までに行って鍵を返す。もちろんその時は、仕事を休んでいかなければならない。中学校の体育館の鍵を借りるシステムを小学校でも導入してほしいという声があった。
教育長	事務局から。
事務局	ご意見承りました。
委員	先ほど、施設を借りる時の煩雑さという言葉があったが、具体的にはどのようなことか。
事務局	比較されるのは、天童市のシステムで、施設の予約をネットでできるようだ。 寒河江市については、希望日の３か月前に直接学校教育課に来て、手書きで申請書を書く必要がある。空き状況については、学校教育課に行かないとわからない状況である。また、申請については、早い者勝ちになっていて、使わなくてもとりあえず押さえておくという事例がある。
委員	施設を貸し出す側として、利用者のことを考えた施設の貸し出し方法について、今後検討していく。
教育長	市民体育館のアリーナは、大きな大会などについては、事前に主要団体で調整するが、それ以外は、体育館に申請に行かないとわからず、早い者勝ちになっている感は否めない。
委員	学区が寒河江小学区だが、毎日小学校の体育館の明かりがついていて、貸し出されている。小学校の貸し出し方法とその状況はどうなのか。
事務局	申し上げたように、学校教育課に直接来て申し込みをする。
委員	部活動改革に関わることで、休日の利用状況や中学校の貸し出し方法についても聞きたい。
事務局	小学校の体育館について、休日も貸し出しの方法は平日と同じである。 中学校については、まず、中学校の部活動で使う時間を押さえて、空いている時間を他の外部の団体が使うことになっている。休日の体育館を借りる場合も、平日に学校教育課に行き申請をする。 貸し出し状況については、行事があるとき以外は、ほとんどの休日で利用されている。
教育長	以前は、体育館の貸し出しは学校で行っていたが、その手続きが煩雑なため、すべての施設を学校教育課で貸し出す形をとるようになった。 ネットで予約状況を確認して予約ができると便利だと思うし、キーボックスを設置し、暗証番号で貸し出すこともできる。全国にはスマホをかざして入ることができる施設もあるようだ。
委員	今年、初めて芸術文化系の活動を部活動改革に絡めて活動することができた。芸術文化協議会に加盟している団体は教育委員会にも配慮いただき、施設の使用についても減免措置いただいている。お陰様でスムーズな運営ができています。
教育長	文科系の活動については、中学生が会場に行き一緒に活動するとか、中学校の部活動に講師の先生が行き、ご指導いただくとか。そのような形で進めていければと考えている。
委員	生涯学習課補佐から令和７年度の実証事業についてご紹介いただき、説明を伺った。ぜひ参加したいと考えている。
教育長	では、生涯学習課より願います。
事務局	文化庁の実証事業について学校教育課を窓口にして、委託を受ける方向で進める。芸術文化協議会の中に、（仮）文化活動体験クラブを設置し、活動していく計画である。 茶道体験や美術部への講師派遣などを検討している。令和７年度も総合文化祭では、茶道

	教室を行う計画である。
教育長	これは、スポーツの実証事業の文化版である。スポーツだと競技ごとだが、文化活動という大きな窓口にして、茶道、華道、絵画などいろいろな活動ができる大きなクラブと捉えている。あとは、市民文化祭とコラボして、子どもたちの発表の場や体験の場として利用することも検討している。
委員	指導者研修会では、受講をすると受講証明書を発行するとあったが、それを持っていると地域クラブの指導者になれるということなのか。
事務局	受講証明書は、地域クラブの指導者として認めるためではなく、あくまで指導者等研修会を受けたことを証明するものである。その証明書が複数枚あることで、意欲がある指導者と認識されるような形をとりたい。そして、指導者名簿を作成し、その中に資格や研修会受講記録などを載せ、情報を共有したい。
委員	研修の内容等を見たが、今年度2回指導者研修会があったが、2回受けた人は1人しかいなかった。そのような研修会で積み重ねを期待できるのか。そのような資格でいいものかと疑問を感じる。また、研修会の内容は、すべてを講師一人でやっているのか、それぞれの講座で担当の講師がいたのか教えてほしい。
事務局	2回の研修会にどちらも参加された方は少なかった。参加する方にもいろいろな都合があると思うが、1回参加すればいいではなく、資質を高めるために何回も参加するような姿勢を指導者の方にも持っていただきたいと思う。事務局として講義を聞いてみたいと思えるような研修会の開催を企画したい。 2回の研修会で、合計4コマ行った。「救急救命法」、「生徒への接し方、ハラスメントの防止」、「休養の重要性、成長期のトレーニング等」についての講義だった。講師は、西村山広域行政組合の消防士、山形大学の渡邊教授、総括コーディネーターよりお話しいただいた。また、講義形式だけではなく、ワークショップ形式も取り入れ、参加者の考えや思いを聞き取る機会を設けた。
教育長	来年度も幅広い分野の講師をお招きして、いろいろなお話を聞けるようにと考えている。関係団体の皆さんについても、指導者研修会の参加について幅広く呼び掛けていただけるとありがたい。
委員	指導者研修会に参加した者として一言お話しさせていただきたい。私が取得している競技の資格やスタートアップコーチの資格は、あくまでスポーツ・競技に特化した研修会が多く、学校生活の様子や生徒たちの姿はほとんどわからない。その中で、今回の研修会で得た知識は、目から鱗だった。学校の中ではトラブルもあるし、人間関係の難しさもある。そうしたことについて講師から話を聞いたことは貴重だった。地域クラブで中学生を受け入れるということは、そうしたトラブルも想定する必要がある、そして実際の経験と対応方法等を聞くことができ、そうしたことは他の研修会では聞くことができないと思う。大変いい研修会だった。競技の指導者としての視点と地域クラブで生徒に指導するという視点は違うということが分かった。今後もこの研修会は続けていただきたい。
事務局	事務局としても、教本を読んで理解するとか、動画を見るとわかるということだけではなく、実際の経験則を聞いて、指導者の方に何かつかんでいただきたいと思い、校長経験、部活動の顧問の経験がある総括コーディネーターに講師をお願いした。今後も生徒の対応に関する経験則や参加者同士のワークショップ、最新のトレーニング等について研修会を企画したいと考えている。
教育長	2回の研修会の中にはワークショップも取り入れて、参加者の情報交換の場になったということも聞いている。来年度そういった情報交換も研修の中に入れていくのか。
事務局	地域クラブ同士の情報交換の場を設定してほしいという声に参加者からあった。別日程で地域クラブの指導者の方に集まっていただくのは、負担も増えるので、研修会や説明会の中で時間を取って情報交換の場を作りたいと考えている。
教育長	他にご意見はあるか。無いようであれば、次に令和7年度の部活動改革の計画について、続けて令和7年度以降の部活動についても併せて事務局願います。
事務局	資料の説明。
教育長	この件については、これまでも協議してきたが、県としては、令和8年度からは休日の部

	活動は行わないと発信している。いきなり実行してしまうと混乱するので、段階的に休日の活動回数を減らしている。来年度の3年生が引退するまで続け、新チームからは、休日の部活動は行わないとしている。 それでは、各委員から一年間を振り返り、ご意見等をいただきたい。
委員	市スポーツ協会には、事務局から部活動改革の説明に来てもらったが、まだ十分な理解までには至っていないと感じる。部活動改革については、教育委員会がホームページで発信しているので少しずつ広がってきていると感じる。スポーツ協会としても発信をしていないと理解は広がらないと思っている。5月に総会があるので、そこで会長や事務局、各競技団体の方へ協力を仰いでいく必要がある。各競技団体の会長さんを動かしていく必要があると考えている。 また、今日の会議の中でも出たが、施設の利用については、これまでも利用者からは、手続きの煩雑さについて指摘されている。今後さらに利用者を拡大していくためにも手続きの方法を検討して、より簡素化していく方向で考えている。
教育長	ありがとうございました。
委員	来年度に向けて中学生とつながっていきたい。まもなく総会があるのでこれまでのことを総会の中で報告をしていきたい。各団体に若い人が入ってなくなると、会自体の存続が難しくなる。若い人を育成していきたいと考えている。
委員	競技の協会に所属するものとして、協会は強化を中心に行っているが、別の立場として、中学生の休日の活動の場の確保を行っている。ただ、生徒や保護者は思っている以上に部活動での大会の成果を気にしていると感じる。 部活動では中体連の大会に向けて練習をする。休日の地域クラブでは、技術の向上や体力向上、レクリエーション的な面なども含めた活動をする。これから中学校に入る現在の小学5・6年生は、どこに入っているか戸惑うと思う。また、平日の部活動の活動内容や顧問の考え方と地域クラブの活動内容や指導者の考え方をすり合わせるのが難しいと思う。また、今後地域クラブを運営するにあたり、競技を経験している生徒と全くの初心者との生徒が加入した際に、どのように教えていくのか不安がある。 さらに、謝金についても、今は実証事業があるが、今後は、保護者に受益者負担について説明をし、月謝等で求めていく必要がある。そういったことも不安の一つである。
委員	スポーツ推進委員は、教育委員会から委嘱を受け活動をしている。レクリエーション的なスポーツの普及などの役割がある。コロナ禍になり、これまで行っていたソフトボール大会・バレーボール大会などのチームスポーツへの参加者がとても減った。代わりに、モルックのような自由参加の教室には、100人程度の人が集まるようになった。運動量は少なくても、モルックやボッチャなどは人気のスポーツになっている。ただ、参加者は増えていても、その中に中学生はほとんどいない。これまでのチームスポーツよりもみんなが楽しめる、年齢の若い人から高齢の世代までどんな世代でも楽しめるスポーツが普及している中、スポーツ推進委員として多くの人を巻き込むことができるスポーツの普及に取り組んでいく。ぜひ中学生の参加者も増やしていきたい。
委員	今年度会議に参加する中で、保護者の意識を変えていかないといけないと感じた。また、子どもたち自身も自分で考えながら、参加していくことが必要だと思う。競技で頑張っていこうとしたら、自分で練習を考えたり工夫したりするものだと思う。そこに対して、ここにいる皆さんのように、子どもたちにとってよりよい環境を整えてあげようとしているのは、子どもたちにとってはすごく幸せなことだと思う。教育委員会の方々も様々なご苦労はあると思うが、うまく擦り合わせて進めてもらえればと願う。 一つ要望がある。情報発信について、さくら連絡網を使って、より細やかに情報をいただければと思う。ありがとうございました。
委員	現在、中体連の役を引きうけているが、寒河江市は他の地区と比べて熱心に部活動改革に取り組んでいると思う。今後部活動がどうなっていくのかという青写真がまだ見えない。ただ、今後の西村山地区として、寒河江市VS4つの町という構図にはしたくない。広域化して、部活動を盛り上げていきたいという思いがある。 例えば、寒河江市にはこういうクラブがあるとか、大江町にはこういうクラブがあるとか

	西村山地区でデータベース化し、共有することで、見通しが持てて、情報としても広まっていけるのではないかと考えている。 次に学習指導要領について。学習指導要領解説の一部改訂があった。その中で、部活動を地域移行するのではなく、地域と連携するとあった。平日と休日で指導者が異なる場合は、指導の一貫性を確保できるように連携するようにと明記されるようだ。そこを踏まえて寒河江市の学校部活動のガイドラインを修正していく必要があると考えている。 最後に、実証事業において委託費があり、地域クラブでは指導者への謝金等に充てることができた。実証事業がなくなった時にどのように財源を確保していくのか。年会費 15,000 円は高いと感じたが、受益者負担となるとその金額でも収まらないのではないかと考える。そうして月会費が高くなっていったときに、それならば行くのやめたといい始める生徒も増えるのではないだろうか。実際に、小学 6 年生に聞いたところ、部活にも地域クラブにも入らないという子が増えていると感じる。では何をするのか聞くと、家でゲームをするとか、動画を見るとか、そういう子供たちが増えてきてしまうのではないかと考える。子どもたちの健全育成を考えるといろいろな問題行動が起こるのではないかと心配する。だから、部活動でも地域クラブでもいいので、人と関わる活動や自然と関わる体験など、どんなことでもいいから、進んで関わるような活動をしてほしいと思う。
教育長	ただいま、委員の皆様からご意見をいただいた。成果と課題を確認しながら、部活動改革を進めていく必要がある。また、ご意見として情報発信の充実ということもあるので、来年度の方針性などについても、さくら連絡網などで保護者に情報が届くように発信するように事務局にお願いする。
事務局	他にご意見や連絡事項をお持ちの方はいらっしゃるか。では、総括として教育長より。
教育長	いろいろなご意見をいただくことができた。もう一度事務局で確認をし、やっていくことが大事。みんながプラスになるように取り組めるといい。子どもたちが土曜日に活動したいと思ったときに活動できる場の整備、競技団体やクラブからすると参加者が高齢化する中での人材確保の面。例えばモルックのようなだれもがやりやすい競技に参加しやすい環境で開催できたら、中学生も参加しやすいのではないかと考える。地域づくりの面からもプラスになるような部活動改革になると思う。 競技力向上の面から技術面を強化する地域クラブがあってもいいし、楽しむことをメインとした地域クラブがあってもいい。全国的な例を見ると例えば軟式野球で、同じ地域に大会を目指す野球クラブと、野球を楽しむ野球クラブがあり、子どもたちが選択できる環境にある。自分で考えて選択してできるような環境があることが大事だと思う。今の部活動はやらされている感じがある。過去に指導していた立場としてもやらせているという感じがあった。そういった感覚を変えていかないと子どもたちはついてこないのではないかと考える。 みんなにとってプラスになるような擦り合わせなどをしながら、部活動改革を進めていくことが大切だと皆さんのご意見をお聞きして思った。一年間ありがとうございました。
事務局	今年度はこれで最後となる。いただいたご意見を来年度事業に落とし込みながら進めていく。今後とも部活動改革についてご協力いただくようお願いする。一年間ありがとうございました。